



⑥上山藩校「天輔館」跡



⑤上山藩「御厩」跡



④鷹匠口番所跡



③二日町口番所跡



⑦武家屋敷「森本家」



⑧武家屋敷「三輪家」



⑨武家屋敷「山田家」



⑩武家屋敷「旧曾我部家」



⑪上山藩校「明新館」跡



⑫鶴の休石（かみのやま温泉源泉）



⑬鏡橋口番所跡



⑭下大湯公衆浴場

町城上山 歩下山城 き町城



②上山御本陣



①上山城大手門（追手門）跡

羽州上山城家中町絵図（上山市蔵資料）

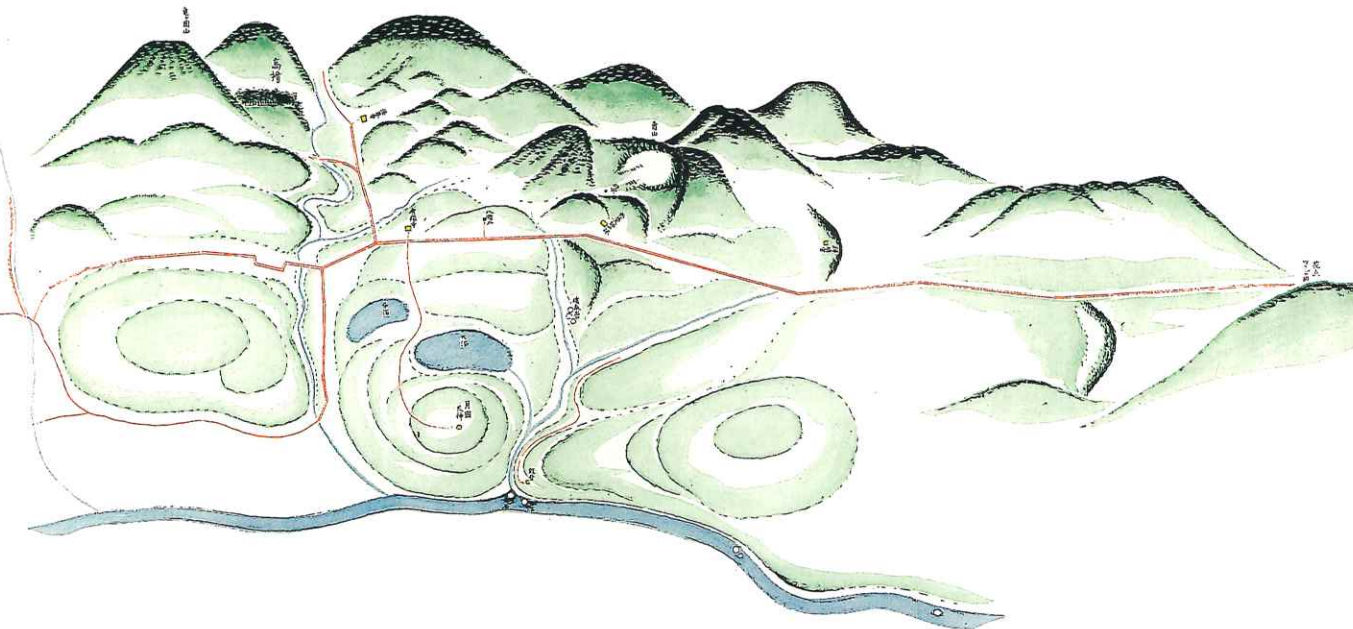
江戸時代の後半に作成された、上山城とその周辺の様子を立体的に描いた絵図。絵図に描かれた道筋の大半が現在も変わることなく残されており、江戸時代の上山を感じながら町歩きができる格好の資料となっている。

- ①上山城の正面玄関である大手門（追手門）が置かれていたとされる場所。
- ②江戸時代、「本陣」として利用された宿。
- ③二日町口番所が置かれていたとされる場所（写真奥が武家地・手前が町人地）。
- ④鷹匠口番所が置かれていたとされる場所（写真奥が武家地・手前が町人地）。
- ⑤上山藩が所有する馬を飼育した「御厩」（馬小屋）が置かれていた場所。
- ⑥文化6年（1809）から藩校「天輔館」が置かれた場所。天保11年（1840）移転。
- ⑦上山藩士 森本家の邸宅。建築年代は文久年間（19世紀半ば頃）とされている。

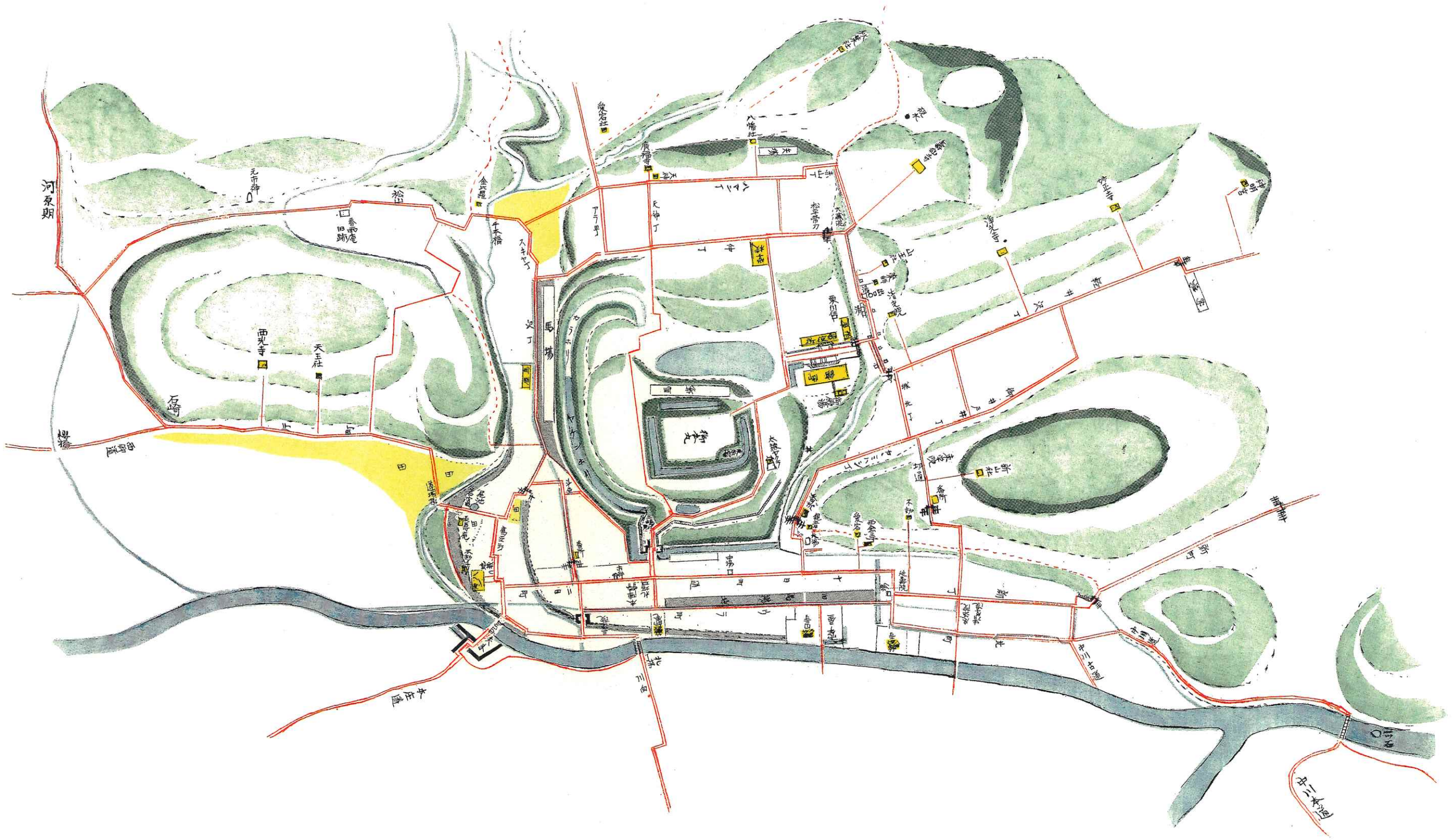
- ⑧上山藩士 三輪家の邸宅。建築年代は文化年間（19世紀初め頃）とされている。
- ⑨上山藩士 山田家の邸宅。建築年代は文化年間とされている。
- ⑩上山藩士 曾我部家の邸宅。曾我部家は、初代からこの地に住んでいたとされている。
- ⑪天保11年から明治4年（1871）まで、藩校「明新館」が置かれていた場所。
- ⑫長禄2年（1458）、上山温泉発見の起源地とされている場所。
- ⑬鏡橋口番所が置かれていたとされる場所（写真奥が武家地・手前が町人地）。
- ⑭寛永2年（1625）、上山領主 能見松平氏が、町人・旅人の入湯の便を図るために設置した浴場。

『上山見聞随筆』は、菅沼定昭が長年の取材によって著わした上山郷土史の貴重な資料集である（明治35年）。中に挿入されている10数点の絵図は、「付図集」として刊行された。当時の様子や、「まち」の変遷がうかがえる。

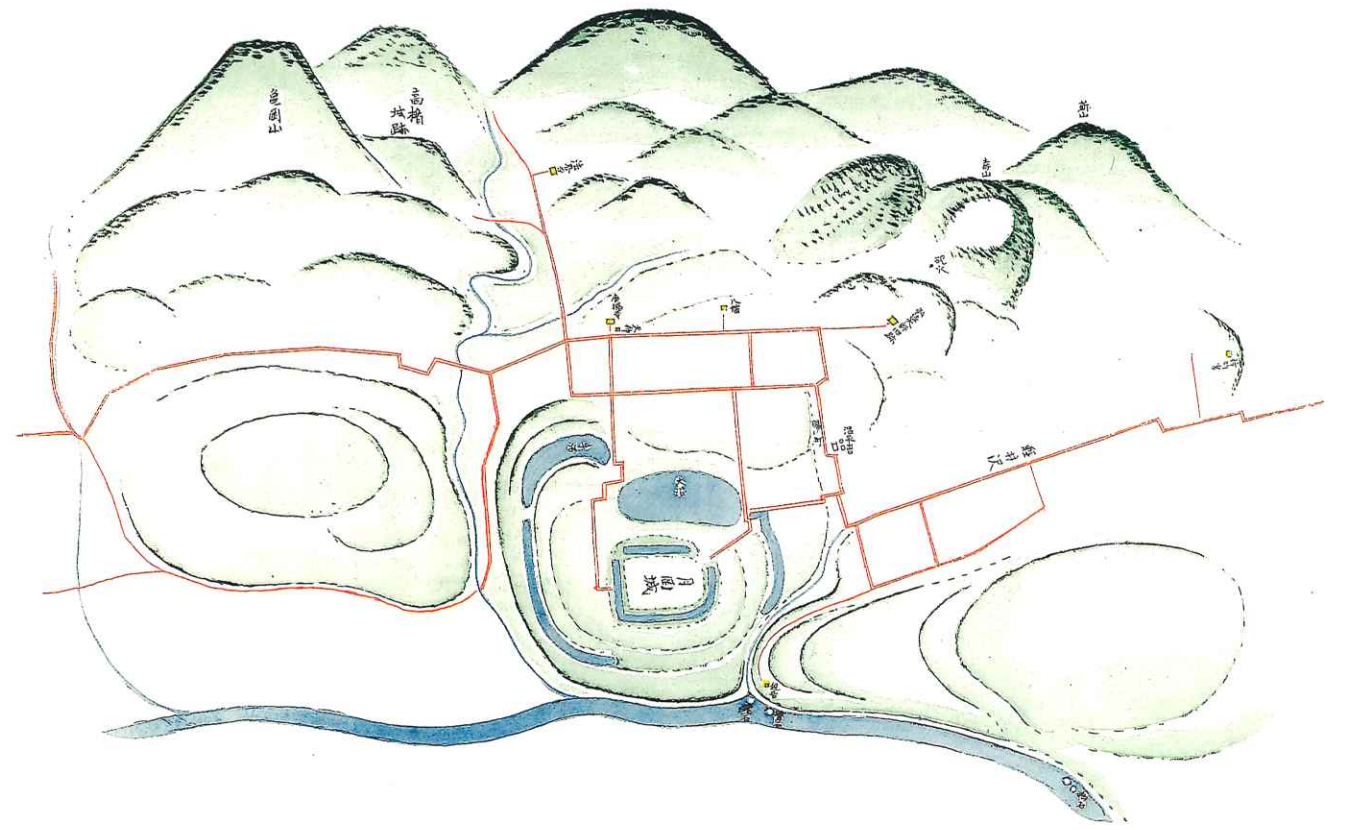
- ①長禄2年（1458）僧月秀によって発見されたと伝えられる鶴脛温泉の源泉地を中心とし、その周辺の地況を想像した略図である。月岡城はまだなく、古道路・高橋城などが見え、中心集落は松山一帯にあったようである。
- ②天文4年（1535）月岡城が武永義忠によって築かれた。大手や沼口通りが西方に設けられ、城西周辺が家中地として整備された。温泉出口付近が往還路となり、軽井沢を経て北方へ行く道へと変化した。前川は防御の役割をしていた。
- ③元和8年（1622）能見松平氏が入部した頃の略図である。前川の川筋が東方に移されており、その跡の河原地に二日町・十日町・裏町、川東に川向い（八日町）ができた。大手も東南方に設けられ、四ツ谷を経る街道も整備された。
- ④寛永5年（1628）土岐氏の入部後、北町・長清水村の移転などによる兵農分離や他国人不入策で、城郭や家中地、寺社・浴場などが整備された。行馬橋ができ、地藏堂から四ツ谷、新丁、十日町、二日町、本庄へという街道も整備された。
- ⑤元禄5年（1692）月岡城が破却となり、直後に金森氏が入部。元禄10年（1697）藤井松平氏が入部し、明治に至る。本丸跡には領主居館が設けられ、藩政は御館と称する役所（現上山小学校）で行われた。藩校「明新館」が見える。



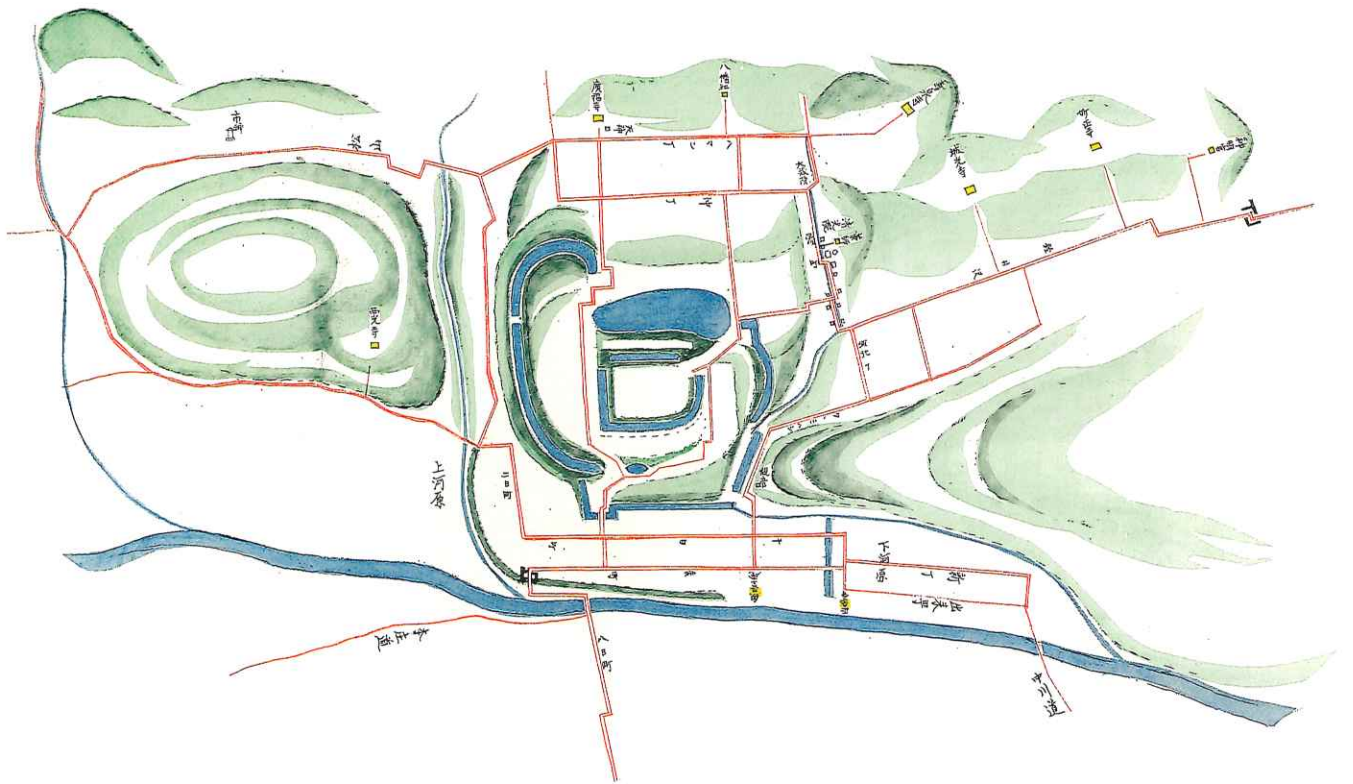
ちようろくねんかんかみのやまむらこうせんはつけんのちきょうりやくず
①長禄年間上山邑鉱泉発見ノ地況略図



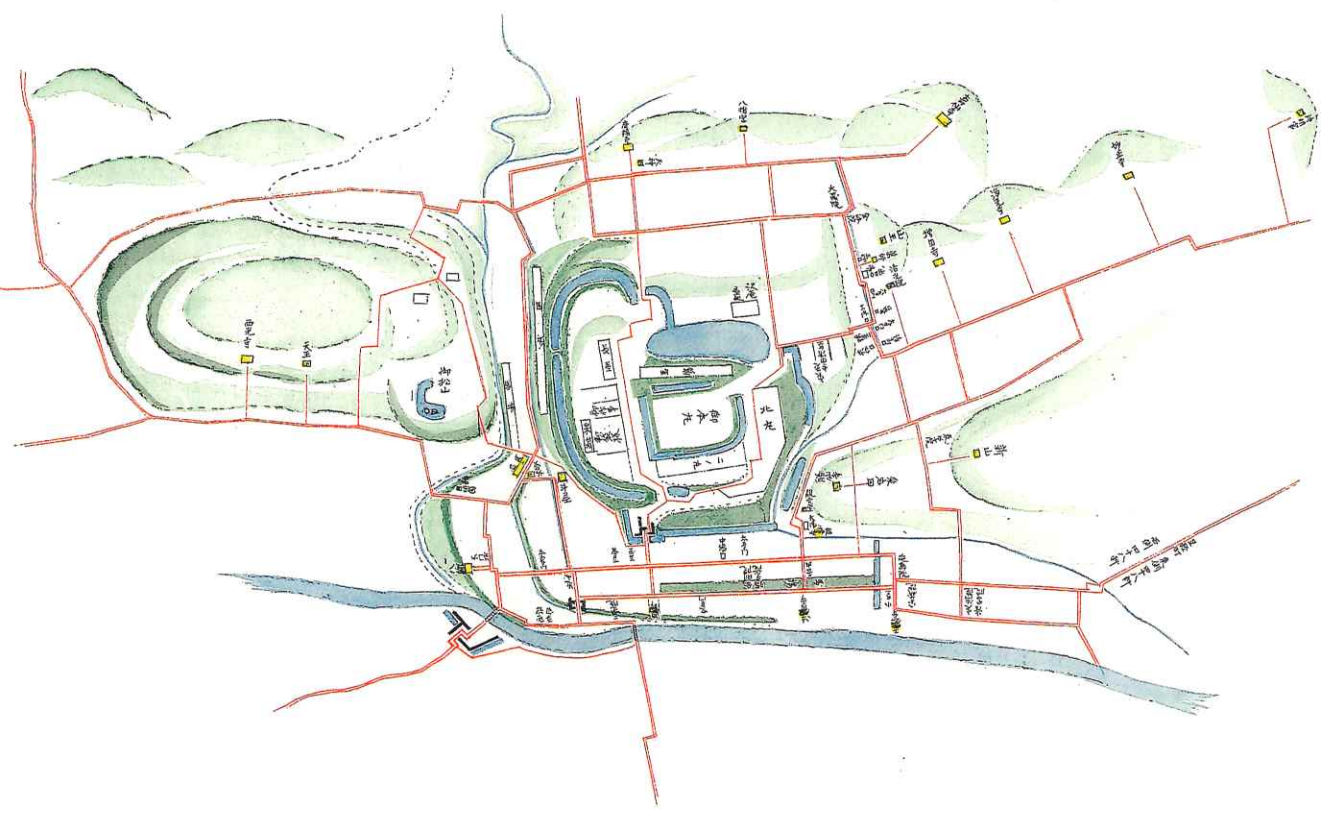
まつだいらやましるのかみみよごいしんまえかみのやままちりやくず
⑤松平山城守御代御維新前上山町略図



てんもんねんかんぶえいしつきおかじょうりやくず
②天文年間武永氏月岡城略図



げんなねんちゅうまつだいらたんのかみだいかみのやまりやくず
③元和年中松平丹後守代上山略図



ときこうみよげんろくどかみのやままちりやくず
④土岐侯御代元禄度上山町略図